

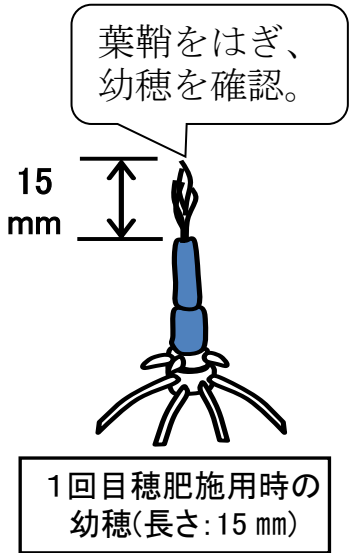
温暖化に打ち勝つなのはな米を作ろう!! ～「R8 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

- コシヒカリの生育は、平年に比べ大変早くなっています。草丈は平年よりやや長く、茎数は平年並み。葉色は平年並みからやや淡くなっています。今後も気温が高いことが予想されるため、5月11日頃の田植えでは、幼穂形成期（幼穂長2mm）は7月7日頃と見込まれます。
- 今後も生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用で過剰着粒を防ぐとともに、水管理や基本防除を徹底し、気象変動に負けない良質米の生産につなげましょう。

1. コシヒカリの穂肥

(1) 肥効調節型基肥栽培の場合

原則追肥は不要です。ただし、出穂の7～10日前（7/22～7/29 頃）に葉色を確認し、葉色が4.0（砂壤土は4.2）以下の場合は、登熟期間中の稲体の活力維持のため、出穂の3～7日前までに追肥3号を5～7kg/10a 施用しましょう。



(2) 分施栽培の場合

生育状況を確認し、生育に応じた穂肥を施用しましょう。

- ・ 1回目穂肥：倒伏や過剰着粒を防ぐため、生育量に応じて慎重に施用
- ・ 2回目穂肥：登熟期の稲体活力維持のため、確実に施用

【分施栽培の穂肥の目安：5/11 田植、追肥3号を使用する場合】

1回目穂肥施用時の生育量と施用量 幼穂長15mm：幼穂形成期（幼穂長2mm）の7日後					2回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a 当り 施用量	施用時期	10a 当り 施用量
適 正	82cm未満	3.6程度	7月14日頃 幼穂長15mm	10kg	1回目穂肥の 7日後	10～13kg
やや過剰	82～87cm	3.8程度	7月16日頃 幼穂長20mm	7kg程度		
過 剰	87cm以上	4.0以上	施用しない		7月20日頃 幼穂長10cm	10kg程度

2. 水管理

(1) 幼穂形成期～出穂期は飽水管理 ～飽水管理で根の活力を維持！～

足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が潤った状態を保ちましょう。

(2) 出穂後20日間は湛水管理 ～湛水管理で登熟を向上！～

出穂期から20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。（高温時は、こまめな水の入れ替えを！）



3. 病虫害防除

今年は例年以上に斑点米カメムシ類が多発しています。基本防除を徹底しましょう。

- ・ 田植日や生育等により出穂期が異なるため、防除前には必ず出穂状況を確認しましょう。
- ・ 全品種2回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・ 防除の際は農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

【防除時期の目安】 ※田植時期は、てんたかく：5/3 頃、コシヒカリ：5/11 頃で推定

体系	防除時期	てんたかく (7/7出穂)	コシヒカリ (7/29 出穂)	薬剤名	10a当り散布量
粉剤	穂 揃 期 (穂が9割程度出ていたら)	7/10 頃	8/1 頃	ラブサイドキラップ粉剤 DL	3～4kg (収穫14日前まで)
	傾 穂 期 (穂揃期の7日後)	7/17 頃	8/8 頃	アルバリン粉剤 DL	3kg (収穫7日前まで)
粒剤	出穂10日前頃	—	7/19 頃	フジワンラップ粒剤	4kg (収穫30日前まで)

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！